

第1回T I C A D V閣僚会合開会式  
岸田外務大臣挨拶

平成26年5月4日

議長ありがとうございます。

ヤン・フィレモン・カメルーン共和国首相閣下、  
ピエール・ムココ・ムボンジョ・カメルーン共和国外務大臣  
閣下、  
アンソニー・モタエ・マルピンアフリカ連合委員会経済委員  
閣下、  
各国閣僚の皆様、  
各国大使の皆様、  
各国及び機関の首席代表の皆様、代表団の皆様、  
並びに御列席の皆様

日本国外務大臣の岸田文雄です。

はじめに、日本政府を代表し、T I C A D共催者であるア  
フリカ連合委員会、国連、国連開発計画、世界銀行と共に、  
皆様の御参加を心から歓迎いたします。

また、ヤン首相を始めカメルーン政府の皆様には、開催国  
として、会合の運営に多大なる御協力を頂き、厚く御礼申し  
上げます。

「アフリカの水を飲んだ者はアフリカに帰る」との諺にあ  
るように、外務大臣として昨年3月のエチオピアに続き、再  
びアフリカを訪れました。T I C A D Vを通じて顔なじみと  
なった皆様にカメルーンで再会できたことを大変嬉しく感  
じております。

御列席の皆様,

昨年6月、私たちは横浜でT I C A D Vを開催し、大きな成功を収めました。T I C A D Vは続く5年間に私たちが目指すべき明確な方針を定めました。それだけではありません。T I C A D Vは日本を大きく変えました。

まず、安倍総理を変えました。安倍総理は、訪れたアフリカの首脳の方々すべてと会談し、アフリカの活力と将来性は本物だと確信しました。自らアフリカに赴くと約束し、その言葉を違えず、今年1月、日本を代表する企業・団体首脳30名以上を連れて、コートジボワール、モザンビーク、エチオピアを訪問しました。訪問先で盛大な歓迎を受け、合計13か国の首脳と語り合う機会を得ました。

次に、日本の経済界を変えました。我が国の企業人たちは、アフリカの資源や市場としての潜在性に大きく目を開きました。アフリカは日本にとっての重要なビジネスパートナーである、今こそアフリカに出て、各国とともにその経済発展に取り組まなければ、と考えるようになりました。

そして何より、日本国民を変えました。T I C A D Vを通して、アフリカの今の姿が連日報じられ、日本の人々はアフリカの生き生きとした姿に関心を向けるようになりました。T I C A D V開催期間中に、約6万人の人々が会場を訪れ、アフリカの産品や文化に触れ、アフリカの可能性と豊かさを実感しました。

日本としてまとめ上げた支援策は、インフラ整備と人材育成、農業、教育・保健、平和と安定という、アフリカの経済発展に真に必要な分野を見極めて決定されたものです。これらに総額として官民あわせて最大約3.2兆円を動員して取り組む決意を示しました。T I C A D Vは、日本が抱いてい

たアフリカの可能性に対する期待を揺るぎない確信へと変え、言葉だけでなく行動によりアフリカの発展に力を傾けることにしたのです。日本は、経済成長著しいアフリカを日本外交のフロンティアとし、貿易・投資の拡大を通じたアフリカとの互恵的な経済関係の強化を目指してまいります。

御列席の皆様、

T I C A D Vからおよそ1年を経て、今ここにこうして再び皆さんとアフリカの未来について語り合えることを喜びに思います。今回の閣僚会合の議題として、T I C A D Vの目標を実現するための具体策を討議することに加え、「農業」、「ポスト2015開発アジェンダ」、そして「女性と若者」が取り上げられました。この3つとも、たいへん意義深い論点と考えます。

農業はアフリカ最大の経済セクターとして、経済成長と貧困削減に重要な役割を果たすことを踏まえ、アフリカ連合（AU）は、今年を「アフリカ農業・食料安全保障年」とし、取組を進めているものと承知しています。日本はこのような取組を応援する国際パートナーであり、安倍総理は、昨年9月の国連総会の機会に、日アフリカ地域経済共同体（RECs）議長国首脳会合を開催し、農業開発について意見を聞きました。また、今回の会合に、特別に農水省から江藤副大臣も駆けつけました。これは日本政府として、アフリカの農業開発に積極的に取り組む決意を示すものです。

来年はミレニアム開発目標（MDGs）の目標年です。来年に向け、「ポスト2015開発アジェンダ」について、国際社会で本腰をいれた検討が進んでいます。日本とアフリカが、この検討に手を携えて取り組めば、有意義で実質的な進展が期待できるでしょう。AUは、「ポスト2015開発アジェンダにおけるアフリカ共通ポジション」を作成しました。

今回の会議が、アフリカと日本の間で考え方の共通点を確認し、共同歩調を進めていく契機になることを期待します。

女性の社会進出を応援する取組は、日本自身にとって重要な課題です。一方でアフリカは長年、開発とビジネスにおける女性の主流化に積極的に取り組んできています。この点で私は、日本とアフリカが経験を分かち合うことができることを期待しています。また、アフリカの人口の多くを占める若者を、どのように雇用確保を通じて経済に取り込んでいくかは、開発の鍵を握る課題と考えます。

アフリカが、最も重視するこれら3つの議題における協力は、日本政府が推し進める日本外交の基本理念である「積極的平和主義」の実践そのものです。日本が思い描く世界の平和と安定そして繁栄は、アフリカを抜きに完結しないからです。「積極的平和主義」が日本とアフリカをつなぐ新たな絆となることを確信しています。

御列席の皆様、

アフリカは、更なる成長と輝かしい未来に向けて力強くその歩を進めています。その道のりは明るくとも、時として困難を伴うものかもしれません。しかし、我々は、TICADVで「横浜宣言2013」と「横浜行動計画2013-2017」という2つの羅針盤を手に入れました。これらの下、我々はアフリカの可能性を確信し、一致協力してアフリカが求める輝かしい未来を共に歩んでいくことができます。

今回の閣僚会合がその一歩となり、皆様との実りある議論を通じた会合の成功を祈念して、私の御挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

(了)